



2025 年度自治労全国介護・地域福祉集会を開催しました！

2024 年 10 月 26 日～27 日、連合会館にて「2025 年度自治労全国介護・地域福祉集会」を開催しました。

26 日の全体集会では、厚生労働省老健局総務課長の江口満課長をお招きし、高齢者保健福祉施策の現状と課題についてお話いただきました。また、講演2では、認知症ケアの先駆者である和田行男先生をお招きし、認知症ケアの現状と課題と題して講演をいただきました。



全国各地から約100人の仲間が参加し、熱心な討議をおこなった

27 日は、「介護政策、労働環境の改善」「地域包括ケアシステム」「障害児・障害福祉」「生活困窮者自立支援法」の4つの分科会に分かれて討議を行いました。介護部会では主に2つの分科会を担当し、1つは「持続可能で魅力ある介護職場づくりに向けて」をテーマに小林司連合本部生

活福祉局長より講演を受けたあと、職場の現状・課題について会場みなさんと意見交換を行いました。

2つめは、「地域包括ケアと街づくり」をテーマに、信州大学経法学部教授井上信宏先生に講演をいただいたあと、介護部会幹事とのトークセッションを行いました。

全国の仲間と交流も出来、充実した2日間の集会でした。学んだことを日々の業務や政策に反映できるよう、ともに頑張りましょう。



「持続可能な未来の創造」に向けて議論

厚生労働省と意見交換を実施 2024.10.25



天本敬久部会長が要請書を手交

介護部会は、2024 年 10 月 25 日、厚生労働省に対して「介護保険制度に関する要請書」を提出しました。

厚生労働省要請には、社会福祉評議会から門崎事務局長、天本介護部会長を筆頭に 8 人の幹事、書記が参加し、厚生労働省からは江口満老健局総務課長ほか 10 人の各担当者が対応されました。

要請行動では、①物価高騰等に伴う支援等について、②介護保険制度の見直しについて、③介護人材の確保について、④その他（訪問介護の基本報酬

見直し等）、について厚生労働省の見解を求め、これらについて、真摯な意見交換が行われました。

特に「訪問介護員の高齢化は進んでおり、人材確保は急務である。これ以上人材不足が続くと介護保険制度の維持が難しくなる。」「今、介護を担う職員自身が介護の仕事に魅力を感じ、子供たちにも『介護に関わる仕事に就きたい』と思ってもらえる仕事になっていくための取り組みを進めて欲しい。」「処遇改善加算の取得がすすめられているが、賃金的にも魅力のある仕事であることも大切であるため、今後も介護業界の全体的な底上げを進めていてもらいたい。」また「コロナウイルス感染症は5類に分類されたが高齢者等にとって、命を脅かす感染症であることには変わりなく、介護現場では発生させないという使命感と、自分が感染させるかもしれない不安を抱えながら常に緊張感をもって仕事をしている。」等、現場の声として訴えました。



各幹事が現場の切実な声を訴えた

また、2024 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震、そして、復興に向けて動き出したところでの 9 月 21 日の豪雨災害によって、過疎がすすむ超高齢化の能登地域では、石川県内自治体・民間の力だけでは立ち行かなくなっていることを報告し、今後の更なる人的、財政的支援を依頼しました。



厚労省側は、「4月から第9期介護保険事業計画に基づいた介護保険事業が開始されたところではあるが、第10期に向けて議論を開始すべき時期が近づいてくる。これまでも様々な意見をいただいているため、丁寧に検討を進めていきたい。人口減少時代の中、協力して、介護保険をオールジャパンの制度として、日本全国どこでも介護が必要な方、家族に必要な介護サービスが継続的に届けられるようにしていきましょう。」と回答しました。

最後に門崎事務局長より「見ている方向は私たち現場も一緒であるため、今後とも協力をいただ

きたく、よろしくお願ひしたい。」と述べ、今後も継続した意見交換の実施を要請し、終了しました。

参加したすべての幹事が意見を述べ、現状を訴え、大変有意義な要請行動となりました。

地連だより

九州地連 介護・福祉集会



九州地連社会福祉評議会では毎年介護福祉集会を開催しており、今年は1月18日(土)～19日(日)の2日間宮崎市の宮崎市民プラザで行なわれました。

初日は門崎事務局長の基調報告に続いて記念講演として宮崎市議会議員の黒田奈々氏による「民主主義とジェンダー平等 ～アイスランド視察から～」で実際に現地に研修に行かれた生の報告で、いかに日本の男女共同参画が進んでいないか、当事者が声をあげ

て連帯する事の大事さ等について学ぶことができました。

その後、介護分科会では天本中央本部部会長を講師に招いて「介護現場の現状と課題 ～2040年を見据えて～」のタイトルで人口構造が変化していく15年後(少子高齢・人口減少社会)に向けて今の私たちがどこに目を向けて、何をすべきかを分かりやすく解説していただきました。

翌日は5～6人ごとのグループに分かれ、現状の単組や職場が抱える課題を出し、自分達でまず取り組めることについて話し合い、普段の業務上の研修とは違う労働組合としての分科会になりました。

集会は学習だけではなく、夜は全体交流会で宮崎牛やチキン南蛮を囲み、大じゃんけん大会や地元名物のひょっとこ踊りといった余興もあり、参加者間の交流も深まりました。



九州地連は8県で毎年開催地を代えて行っており、次回(2026年度)は鹿児島市で開催されます。美味しい焼酎と料理をご用意してお待ちしていますので(特に九州の方)皆さまの参加をお待ちしております！

